

# 会 議 記 録

作成部局課名 丸子地域自治センター 地域振興課

開催日	平成 22年 2月 26日(金曜日)	開催時刻	15時 35分から 16時 46分
会議名	丸子地域協議会(平成 21年度第 11回)		
出席委員	浅倉委員、生田委員、大森委員、片桐委員、木下委員、甲田委員、笹井委員、笹沢委員、滝沢(浩)委員、武井委員、竹花委員、土屋委員、成澤(啓)委員、成澤(み)委員、本間委員、宮坂委員、村松委員 【欠席】倉沢委員、滝沢(俊)委員、柳原委員		
市側出席者	関丸子地域自治センター長、佐藤センター次長兼地域振興課長、関尾市民生活課長、斎藤産業観光課長、上原商工観光係長、宮入商工労政担当主査、大平地域政策担当係長、中村地域政策担当主査		

## 会議次第

現地調査 午後 1時 30分から(わがまち魅力アップ応援事業・平成 22年度応募事業 8か所)

### 第 11回丸子地域協議会

- 1 開会(佐藤センター次長)
- 2 会長あいさつ(片桐会長)

現地調査は、プレゼンテーション選考の参考になったと思います。

昨日、地域協議会の今後のあり方についての意見書を母袋市長へ手渡してまいりました。母袋市長からは、検討していただいて大変ありがたい今後の参考にしていききたいというお言葉をいただいた。母袋市長は地域協議会に対して大きく期待をされています。

### 3 会議事項

#### (1)防犯灯 LED化の意見書について(市民生活課)

丸子地域協議会から提出いただいた「丸子地域の防犯灯の LED 化について」の意見書に対する回答について事前に協議をお願いしたい。意見書をいただいて時間も経っているが、相互の理解を深めて、市民と行政が協働によりよい住環境を整備するためとお考えいただきたい。上田市の基本的な考え方を説明し、意見を伺い回答書の成案を作成してまいりたい。資料により説明。

資料：丸子地域協議会からの「丸子地域の防犯灯の LED 化について」の意見書に対する回答書(案)の基本的な考え方

#### 主な質疑の内容

(委員) 合併したことによって、防犯灯の電気料補助が 100%から 50%となった。どの自治会も支出に占める割合が非常に高い。「パイロット事業として可能性を探りながら」と非常に抽象的な言い方だが、もっと前向きにどうしたらできるか知恵を出してもらい、

我々自治会も協力するのでなんとか早期実現をぜひ進めていただくよう強く要望する。

(委員)「もう少しばかり時間をかけて調査研究する必要がある」と言われているが、今までどれだけの調査研究をされてきているのか。「可能性を探りながら、今後同事業を推進するための調査・研究を行ってまいります」とあるが、具体的にどういう計画で進めるか。

(市民生活課)現在のLEDライトに対する情報は、業者のパンフレットやインターネット等からのものが多く、これらに謳われている効果の信頼性が確立されていない今ここで、上田市全部の街路灯をLEDに変更していくにはリスクが大きすぎると考えている。よって、パイロット事業の前提として、丸子地域だけでも試験的に進める形をさぐりながら、今後同事業を推進するための電気料、寿命等について調査研究していきたい。

(委員)今の話しだと、能動的に調査をして、どこまで使えるかという前向きでの取り組みが十分されていないのではないか。例えば特許問題についても調べようと思えば調べられる。対策も取り組もうと思えばかなり前向きに取り組める。もっと積極的な前向きな話しをお伺いしたい。

(市民生活課)JIS規格で認められたものが行政として進めていく上で非常に重要なポイントになるのではないかと。

(委員)かなり技術として確立された上でJIS化されるわけだから、相当向こうの話になってしまう。パイロット事業の話とは一致しない。

(市民生活課)確かにJIS化されるには時間がかかると思われるが、国際規格での制定という話しも睨みながら検討していきたい。

(事務局)上田市の基本的な考え方が示されたが、丸子地域とすれば他地域に先駆けてこの事業をやっていききたいという強い意志で意見書としてまとめてきている。今議論されているとおり、JIS規格、国際標準、特許の問題は、自分達が一定程度目鼻をつけながら前進していく必要があるかと思う。LED化の意見書提出にあたっては自治会長を中心に専門部会を設けている。もう一度その専門部会に情報等を示しながら確認していきたい。一つはリスクを背負うと指摘されている点、今まで出してきた資料は、企業の資料、インターネット上の情報で意見書を取りまとめた経過がある。地域内にもメーカーが何社かあるので、それぞれが行っているパイロット事業がどうかという検討を加えながら、丸子地域とすれば、市全体よりも先んじた形で調査研究をする必要があるのではないかと。LED化に向けた専門部会についてご検討いただきたい。

(委員)継続的な取組みになるのかと思うが、専門部会と市民生活課との連携を今後、密に取組むことにしたらいかがか。

(市民生活課)市民生活課と生活環境課も含めて一緒に協議させていただきたい。

(委員)丸子地域でパイロット事業として実現していきたいということですが、例えば2~3年でとか、具体的な計画はあるか。

(市民生活課)地域協議会に回答書をお出しするには庁内決定機関(地域経営会議)に回り内容を決定することとなるため、今日ここで私が具体的な計画についてお答えすることはできない。

(会長) 今まで出された意見を参考に、取り組んでいただきたい。

(2)製造業の振興を狙った先進地との人・モノ・情報のビジネス交流事業の実施について  
(産業観光課)

諸費用を含め 60 万円のビジネス交流事業の予算付けを地域予算で行うことについて協議いただきたい。資料により説明。

大田区も地域的には工業立地の余地はなく、他地域への工場進出の意向もある。技術提携する工場を探している状況もある。上田市商工課では、商工会議所を通じて、もっと大きなフェアへの出展を計画しているが、丸子地域ではもっと実利のある小さい大田区又は墨田区、人口衛星を打ち上げた境とも交流していくことが大事だということ考え、地域予算をつける形でご了解いただきたい。

資料：製造業の振興を狙った先進地との人・モノ・情報のビジネス交流事業の実施について

主な質疑の内容

(委員) 大田区の講師で講演会を開いたとき私も出席したが、丸子の工業と良く似た感じで、大田のブランドは、大勢の職員で作っているブランドではなく、数人でやって個性ある企業が大変好評。講演会では、丸子の工業の皆さんが興味を持ったようなので、ぜひ推薦したい。

(産業観光課) こういう経済状況だからこそやっていかなければいけないと考えている。できれば 10割近い補助があればありがたい。それも含めてご検討いただきたい。景気の状態がわからないが、当面は平成 22年度で考えている。

(産業観光課) 毎年、工業振興会へ定額で 30万円補助している。工業振興会では平成 21年度、セミナーを開催するなど多くの事業をできる限りやってきた中で積立金も取崩してきた。来年度同じような事業のボリュームで、なおかつ一歩手を加えるということになると予算的には厳しい。

(委員) 振興策をいろいろと講じることは結構なことだが、共同出展の中身をご説明いただきたい。

(産業観光課) 共同ブースで、地元の技術力を最大限出した出展を考え計画していきたい。出展できる企業の公募をかけて、その中で割り振りをしていきたい。

(委員) 地域予算を使うにあたって、使える項目のどこに当てはまるか。また、他の地域協議会で同様な事例があるか。

(事務局) 地域特性を活かした地域の活性化ということが地域予算の一つの大きな課題。丸子にとって工業振興は地域の特性。他の地域協議会で産業展のブースを設ける費用を積極的に支援する話は聞いてない。

(産業観光課) 上田の商工会議所も各部会しっかりとしているが、共同ブースによる出展はない。武石、真田は建設業が多く出展はない。丸子地域だけがフェアへ出展をしてい

る。昭和 56年に当時の工業振興会が晴海の工業展に出たのが丸子の最初で、それ以降、丸子地域ではずっと出展してきている。

(委員) 丸子町の時代は、晴海で中小企業が自分達の目玉を展示してやってきたが、今も続けているのか。補助あるか。

(産業観光課) 中小企業の販路拡大事業補助金で、出展したところには 2分の 1以内で 10万円を限度という補助制度があるが、予算枠は上田市全体で限られている。丸子でロケットの部品を手がけた方もいるし、飛行機の部品を作っている企業もある。さいたまアリーナでは、名刺を置いていったところに出展した中身やお礼の手紙、神の倉工業団地のパンフレットを送り、それぞれ企業の方にコンタクトを取れる努力をしている。市の補助金は丸子地域 8件 80万円を対象とした。

(委員) 工業振興は地域としても重要なことだが今日の決議はいかがか。金額の詳しい資料を出してもらふことと、地域協議会で決議するものなのかどうか。継続協議で今日決めないということかどうか。

(産業観光課) 協議していただいて良いとなれば、6月補正で予算を取りたい。4月に予算締め切りになるので、継続協議で3月に結論をいただければ十分に間に合う。

(委員) 丸子に限らず上小地域は非常に苦しんでいる。一番は雇用が危ない。安定した雇用をしていた製造業が持ちこたえられなくて、上田ハローワークの求人倍率が県下最悪。雇用をなんとか守らなければいけない。丸子の倒産が少なかったのは、商工会と産業観光課が協力して雇用を維持してきた。地域予算があるとしたら、これは工場を経営している人たちが潤うとかそういうことではなくて、市民の雇用を維持しなければ地域の活性化にはならないと思うので、地域協議会の総意で決められるものであったら、なんとかしたいという率直な感想。

#### 決定事項等

・次回、継続協議。

#### 4. 調査研究事項

##### (1) 全体会議

・わがまち魅力アップ応援事業の応募状況・選考協議について(事務局)

#### [平成 22年度丸子地域の応募状況について説明]

個性あるふるさとづくり事業(自治会対象)6件。新規申込事業なし。

特色あるまちづくり事業(市民活動団体対象)8件。新規事業4件。

応募金額 7,543,000円 予算配分4,400,000円、地域予算2,300,000

計6,700,000円の予算。応募段階で、843,000円が予算上不足している額。

#### [選考協議について説明]

・日程 3月12日(金曜日)に開催の第12回丸子地域協議会で実施。

[事前打合せ]午後1時30分に第1会議室に集合。

[プレゼンテーション選考]午後2時から講堂にて。

・新規申込み4事業。1団体質疑含めて15分。

[選考協議]午後3時から第1会議室にて。

団体には、プレゼンテーションで特にアピールする点を5分程度で簡潔に説明いただき、その後に委員から質問をお願いしたい。

・選考の評価について説明。 地域協議会選考資料

選考要領の1ページから4ページについて説明。

1から2ページは、「個性あるふるさとづくり応援事業」(自治会対象)の選考に関する説明。これについては採点がなく、「公益性」、「妥当性」、「効果・効率性」、「継続性」の4つの視点で意見をいただきたい。

3ページから4ページは、「特色あるまちづくり応援事業」(市民活動団体対象)の選考に関する説明。こちらには採点がある。「公益性」、「妥当性」、「効果・効率性」、「継続性」、「先進性・独創性」の5つの視点について、5段階評価で採点していただきたい。

「自治会対象」と「市民団体対象」の違い。

自治会対象の「個性あるふるさとづくり事業」1ページの3(1)公益性の部分。この事業により事業効果が及ぶ範囲は「自治会内対象」。自治会内で合意された事業なので、採点がなく、意見やアドバイスのみをお願いしたい。今回は新規事業がなく、継続事業のみ。

市民対象の「特色あるまちづくり事業」4ページ(1)公共性の部分。対象が不特定多数の市民に効果が及ぶ事業。(4)継続性では、今後の団体の自立性にも寄与することが認められるもの。「先進性・独創性」を評価していただく。3点違う点。

これらの観点を評価し、「選考調書」に事前にご記入してきていただき、プレゼン選考で修正をしていただきたい。「選考調書」用紙は、開催通知と一緒に後日送る予定。

3月12日のプレゼンテーションは新規の市民団体4団体のみ行う。その他の事業は継続事業で、書類審査のみで「選考調書」を提出していただき全体を集計し、採択について協議していただきたい。

3月19日の午後1時30分から「実績報告会」を予定。継続事業については、そこでも意見や助言を「選考調書」に加筆していただき、その日に第13回地域協議会を開催し、第2期地域協議会の最後の協議会とさせていただきたい。

資料：わがまち魅力アップ応援事業・平成22年度応募事業一覧表ほか

主な質疑の内容

(委員)プレゼンテーション資料の用紙は、いつ配られるか。

(事務局)丸子地域独自の提出資料で、団体から2月26日までに出していただき、事前に通

知と一緒に委員の皆さんにお配りしたい。

(委員) 採用・不採用が明瞭でないことについて、今日ある程度の方針を出していただきたい。

(事務局) 応募金額が予算をオーバーしているので、全部採択になれば、金額の調整又は次年度に送っていただくという調整をすることになる。3月1日に担当課長会議があり、全市の応募状況が把握できる。予算が余る地域もあれば足りない地域もある。前回までは、他地域の予算を丸子地域へ充当していた経過があるが、その状況も見ながらどうか。

(委員) 前回の地域協議会で、13点以上が妥当ではないかと理由まで示して提案した。

(事務局) 10点未満の事業は不採択。13点以上で採択。採否の基準を13点にラインを引いて10点以上から13点までの事業について協議するというところでどうか。

(委員) 名前を変えれば終わった団体が採用できるのか。同じ地区で同じ会員組織で応募が出ている団体がある。

(委員) それは意義があって出しているから良いのでは。

(事務局) 明らかに内容も同じものは2年で終わりだとはっきりしているが、その事業と違う新規の事業を立ち上げる場合、別な事業を同じ名称の団体が申し込んでいるものもある。それは、選考協議の中で協議していただいて、一つのルール化を確認する必要がある。

(委員) 今後の宣伝になるので、ここできちっと議論しておかないと、後々、ほかのところの先例となって、いろいろと同じようなものが出てくる可能性がある。

(委員) 同じ場所、同じ会員というのは駄目だという解釈で行ったほうが良いのではないか。団体の名前が変わっていても、会員と場所が同じなものはいかがかと思う。

(会長) 行政側とすれば、申請の段階で駄目だとはなかなか難しい気がする。従いまして、これは同じような事業だという委員の審査の判断に委ねるしかないと思う。

(委員) 継続性の「今後の団体の自立性にも寄与することが認められる」というところで、きちとしたものを出してもらうことでいいのでは。ある程度やろうとしている意欲は買わないと地域振興にならないと思う。

(センター長) わがまち魅力アップ応援事業の市民向け事業は2年が限度。2年間は自己負担がなくても全部市の補助金でできる事業。2年間は応援するが、3年目からは自分達が負担してでもやっていくということが継続性。最初の出発は応援するが、後は自分達が自立してやってくださいということで2年という期限があると思う。着物を着替えて出てきたのは難しいと思う。それは中を見てやっていかないとまずい。

(会長) センター長が言われた継続性を良く頭に置いて、審査をお願いしたい。

#### カネボウ食堂棟活用検討専門部会の報告(部会長)

旧食堂棟の使用の希望に関するアンケートを行った。回答書が25通。利用希望ある団体が13団体あった。そのうち定期的に使用していきたい団体が3団体あった。ヒマラヤスギ

や建物も含めて、あの環境をどうしていく必要があるかという意向調査も同時に行ったが、大多数の皆さんから、保存していく方向で取組むべきだと回答を得ている。施設整備では、照明、暖房、管理の上で鍵の設置などいろいろな要望もあった。使用希望のほとんどが年数回のイベント的な活動をしたいという要望だった。今後、検討していかなければいけない事項として、さらに潜在的な使用要望があるかの調査、イベント的な利用方法と定期的な利用方法の両方あるので両立できる施設にしていくにはどうすればいいか、そういう目的に沿って整備をどう進めるか、今後継続的に検討していくことが必要になると思う。この地域協議会も3月末までなので取りまとめ、次期へ申し送りをしていきたい。

## (2) 専門部会

- ・地域協議会終了後に開催。

## 5. その他

- ・今後の日程について

- ・ 第12回丸子地域協議会 3月12日(金曜日)午後1時30分から  
(わがまち魅力アップ応援事業・平成22年度事業選考協議)丸子地域自治センター
- ・ 第13回丸子地域協議会 3月19日(金曜日)午後1時30分から  
(わがまち魅力アップ応援事業・平成21年度事業実績報告会)丸子文化会館

## 6. 閉会

- ・引き続き分散会を開催。

- ・地域協議会終了後、専門部会(第2会議室)。